



2021.2.26
第174号

全国鑑評会福島七連覇の秘密



会津教育事務所域内三支会連絡会

会長 松本健男

(会津若松市酒造組合理事長)

毎年五月に開催される全国新酒鑑評会において、福島県の酒造の金賞受賞数が七年連続日本一になったことは、「醸造王国ふくしま」として話題となったことや県知事との記念パネル除幕式の映像等でご存じのことと思う。

酒蔵数では、新潟・秋田・長野の方が多し、出荷量も灘や伏見とは比べ物にならないほど少ないのに、なぜ福島県だけがこんなに勝ち続けられるのだろうか。

おそらく、福島だけ賢い酒蔵が揃っているから…ではないだろう。ただ他県と比べて三つ程勝っている点があると思う。

る点があると思う。

①福島県清酒アカデミーの存在

三年制で、農大のゼミの様な形で勉強させる機関である。ここでは若手後継者や次の杜氏(酒造りの責任者)などに科学的専門知識をしっかりと身に付けさせ、醸造学を学ばせる。

②高品質清酒研究会の存在

酒蔵同士の勉強会で鑑評会に出る品する酒を互いに持ち寄り優劣や情報を共有する。他社の出品酒を自分の酒と客観的に比べることでより正しく認識できる。教育界でも秋田に研修に行くと「教員間の

発行

福島県市町村
教育委員協議会
連絡会津支会会
北会麻支会
耶沼支会

編集

福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力

小・中学校長会

情報や知識が共有されており、先生同士の話し合いの場が醸成されている」と報告書にあるように、酒蔵同士がライバルの垣根を越えて指摘し合うことで、切磋琢磨できるようになる。

③目標がより身近に

清酒アカデミーや高品質清酒研究会で一緒にあった若手は、互いに競い合うようになり、「全国新酒鑑評会金賞は、名人杜氏が取るもの」と思っていた夢の話は、遠い目標ではなく、頑張れば自分の手に届く身近な所にあると気付く。そして、アカデミーや研究会で学ぶことで、福島七連覇に貢献できる「誇り」をもてる。こんな好条件が揃っていることが七連覇の秘密なのでは、と感じている。

清酒を取り巻く環境は厳しいものがあるが、「日本一美味しいお酒が飲める郷」として貢献できれ

令和2年度 各種受賞紹介 (敬称略)

文部科学大臣表彰

- 地方教育行政功労者
前昭和村教育委員会教育長 本名 幸平
- 学校保健及び学校安全表彰
喜多方市立第一中学校 学校薬剤師 清水 純子
- 「地域学校協働活動」推進に係る表彰
大戸地域学校協働本部(会津若松市)
- 優良公民館表彰
会津若松市湊公民館
- 優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進に係る表彰
喜多方市立第一小学校
- 子供の読書活動優秀実践団体
朗読劇サークル アグリーダックス
- 優秀教職員
喜多方市立第一小学校 教諭 伊藤 大
喜多方市立松山小学校 教諭 岩本美和子

県教育委員会表彰

- 学校教育功労者
会津若松市立鶴城小学校 校長 唐司 和彦
- 社会教育功労者
会津若松市社会教育委員 小野 修
- 社会教育功労顕著な団体
喜多方市立堂島小学校父母と教師の会
- へき地教育関係功労者
西会津町立西会津中学校 校長 五十嵐正彦

へき地教育功績顕著な団体

- 猪苗代町立緑小学校
- 優秀教職員
喜多方市立第一小学校 養護教諭 長谷川めぐみ
喜多方市立高郷小学校 教諭 豊野 創平
会津美里町立本郷中学校 教諭 真壁 伸介
- 福島県教職員研究論文
奨励賞 会津若松市立謹教小学校 教諭 奥 仁

県学校関係緑化コンクール

- 《学校林等活動の部》
- 知事賞・福島民報社社長賞
会津若松市立湊小学校
- 教育長賞
会津若松市立川南小学校
- 《学校環境緑化の部》
- 知事賞・福島民友新聞社社長賞
会津若松市立川南小学校
- 教育長賞
会津若松市立大戸小学校
- 関東森林管理局長賞
会津若松市立湊小学校

県学校歯科保健優良校表彰

- 特別表彰
喜多方市立第一小学校

最優秀賞

- 喜多方市立第一小学校
- 優秀賞
会津若松市立河東学園小学校
喜多方市立松山小学校
喜多方市立高郷小学校
湯川村立笈川小学校
湯川村立勝常小学校

努力賞

- 会津若松市立大戸小学校
磐梯町立磐梯第二小学校
喜多方市立上三宮小学校
磐梯町立磐梯中学校
- 奨励賞
北塩原村立裏磐梯小学校
会津美里町立高田中学校
福島県立坂下高等学校

ふくしまっ子ごはんコンテスト(学校賞)

- 会津若松市立一箕小学校
喜多方市立上三宮小学校
会津若松市立第三中学校
西会津町立西会津中学校

(令和3年2月19日現在)

コロナ禍の2020(令和2)年をふり返って



柳津町教育委員会教育長

神 田 順 一

昨年は、新型コロナに始まり新型コロナに終わった1年だった。本町でも、1月下旬から関連する事案への対応が始まった。

そんな中、予定より少し遅れた8月に、タブレット端末1人1台の環境を整えることができた。これに先立って、昨年度からICT支援員の配置も行っている。十分な日数とは言えないかもしれないが、教職員にとってかなり有効な支援策になっているのではないかと考えている。4月から5月にかけての臨時休業の際には、各学校で双方向のオンライン朝の会や授業などに取り組んでもらった。このことは、各学校の教職員の意欲的な取組とICT支援員の支援とが融合した結果ではないかと思っている。

これらの事業が進められたのは、子育て支援に力点を置く町当局、そして、町議会議員のみなさんの学校教育への理解や教育委員会への力強い後押しによるところが大きい。学校教育以外でも、公民館事業で、魅力的な講師を招いての講演会等を実施できた。コロナ禍の影響で予定をかなり変更することになったが、昨年度に続き、シドニーオリンピック競泳銀メダリストの中村真衣さんや本県出身の料理人の野崎洋光さんに来ていただいた。また、大学客員准教授の肩書をもつさかなクンの講演会も開催することができた。

縄文館に展示している「石生前遺跡」(縄文中期～後期)の火焰型土器等の出土品や軽井沢銀山跡に残る煙突など、町内の文化遺産についてどのように保存・活用できるかを検討する会議等も、何とか開催することができた。

現在、斎藤清美術館の消防設備の改修も行っている。中止や延期などを余儀なくされた事業も少なくないが、子どもたちを含めた町民「一人一人の個性が輝くまちづくり」を、何とか進めてきた1年間だった。今は、新型コロナ感染症の一日も早い沈静化、終息を願うばかりである。

我がまちからの情報発信

昭和村教育委員会

小さな教育委員会のコロナ対応

昭和村教育委員会は、正職員3名、会計年度任用職員2名で仕事を分担し、運営しています。

会津地区でまだ感染者が出ていなかった昨年2月27日、首相から全国一斉の休校要請が出され、ここからコロナウイルスという目に見えない不安と、国・県からの要請とどう折り合いをつけて教育活動を進めていくか、模索が始まりました。

1 二度の一斉臨時休校要請への対応

村で決めた感染対応レベルを一気に3段階も飛び越える急な要請に戸惑いながら、高齢者が多い村の実態を考え、従うことにしました。

一方で、オンライン教育環境が未整備だったため、児童生徒が学びの機会を失うことをはじめ、ゲームやネットへの強依存、食や生活の乱れ等、子ども達への不利益が懸念されました。

5月には、小規模校の利点を生かして登校日に授業を行い、給食も提供して乗り切りました。

また、西会津町教育長に御助言をいただきながら、ICT環境の整備にも努めてきました。

2 コロナ禍での社会教育活動

行事が次々中止となる中、金山町・三島町と合同で、夏休み中に「山っ子スクール」を実施しました。31名の児童が、3密を避けた自然の中で、川遊びと他校の友達との交流を楽しみました。



判断に迷ったお盆の成人式は、北塩原村等他村と連絡を取り合う中で実施を決断し、11名全員の出席を得て、無事開催することができました。

地元学講座、芸術鑑賞、千歳学級、少年教室、文化祭等の行事も、職員「学びを止めず、できることはやりたい」という思いを受け、予防対策をとって、試行錯誤を繰り返しながら、可能な限り実施してきました。

3 今後の学校教育や社会教育をどうするか

他市町村で中止を余儀なくされた行事のニュースを聞く度に心を痛めてきましたが、12月に本村でも感染が確認され、新たな段階に入りました。

一日も早い収束を心から願いつつ、全職員で力を合わせてコロナと付き合っていこうと思います。

家庭教育支援 『2つのアプローチ』

スマホ・SNSとの付き合い方へのアプローチ

域内の家庭教育について協議する地域家庭教育推進会津ブロック会議では、メディアコントロールの推進をテーマに、特にSNSとの付き合い方について協議を進めています。

主に保護者へのアプローチの一つとして、短時間に、簡単にできる「会津版 スマホ・SNS検定」の作成を進めており、今年度末までの完成を予定しています。完成後は会津教育事務所のホームページに掲載しますので御活用ください。



【会津版 スマホ・SNS検定のトップページ及び目次】

不登校支援へのアプローチ

会津域内では、不登校となる児童生徒の増加に対する対応が喫緊の課題となっております。

今後も、会津教育事務所では、学校、家庭、関係機関の連携・協働の下、どのような家庭教育の支援ができるのか、不登校支援に関する研修会等を開催してまいります。

学校関係者、保護者、家庭教育支援者等、どなたでも参加できる研修会とする予定です。



令和2年度「地域でつながる家庭教育応援事業」
家庭教育支援者地区別研修(会津地区)の様子
【期日】令和2年11月19日(木)
【講演】「子どもが学校へ行けなくなったときの支援」
～家族療法を支援に活かす～
【講師】新潟県新潟市スクールカウンセラー 佐藤真奈美氏

『AI時代を生き抜く読解力向上事業』

リーディングスキルを視点とした授業づくり

リーディングスキルテスト(以下、RST)は、国立情報学研究所 新井紀子教授を中心とした研究グループによって「基礎的・汎用的読解力」を診断するために考案されたテストで、「係り受け解析」等の6分野7項目^{*1}で診断されます。RSTは、インターネットに接続されたPCやタブレット端末を使って実施し、教科書や新聞、辞書等を出典とした200字程度の短文を読んで解答します。

令和2年度は、県内14校、会津域内では2校(会津若松市立鶴城小学校、西会津町立西会津中学校)が「キラリ校」としてRSTの受検、実践研究等を行っています。^{*2}

RSTは、「キラリ校」の児童生徒だけでなく、先生方にも受検していただいています。それは、RSTそのものを体験していただくことに加え、受検者である教員が自身の「読みの傾向」を知ること、「読む」ということにじっくり向き合っていくことができるからです。この機会に一人でも多くの先生方にRSTを体験していただきたいと思いますが、RS(リーディングスキル)の視点で授業づくりを行うことは、今からでも可能です。この記事をお読みになられた先生方、ぜひ明日の授業で扱う教科書を開き、子どもたちのつまずきを予測しながら丁寧に読み進めてください。そして、明日の授業では、「『それ』って何?」「図に表すとどうなる?」など、つまずきそうな部分を取り上げて、児童生徒の理解を深め、本時のねらいを達成できる

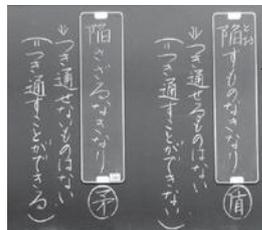
よう授業を展開していただきたいと思います。

私たちの身の回りには、申請書類、契約書はもちろん、友人とのメールなど、正しく読み解かなければならない文章がたくさんあります。「読解力」は学校だけでなく、人生においても必要な力です。AI時代をたくましく生き抜いていけるよう、様々な場面で対応できる「読解力」を身に付けさせたいものです。

“キラリ校”の実践事例が今年度末までに義務教育課HPに掲載される予定ですので、ぜひ御覧ください。

係り受け解析	文の基本構造(主語・述語・目的語など)を把握する力
照応解決	指示代名詞が指すものや、省略された主語や目的語を把握する力
同義文判定	2文の意味が同一であるかどうかを正しく判定する力
推論	文の構造を理解した上で、生活体験や常識、様々な知識を総動員して文章の意味を理解する力
イメージ同定	文章を図やグラフと比べて、内容が一致しているかを認識する力
具体例同定(辞書)	辞書の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得する力
具体例同定(理数)	理数的な定義を理解し、その用法を獲得する力

*1 RSTにおける6分野7項目



1年国語「今に生きる言葉」
～故事成語「矛盾」から～
(同義文判定)
直訳は「つき通せるものはない」となるが、別の言い方で言わせて生徒の理解を深めた。

*2 R2.11.18 西会津中学校研究公開の板書

各学校の特色ある取組紹介

会津伝統野菜をメジャーにしようプロジェクト始動!

会津若松市立第二中学校

今年度、2年生の技術の授業で余蒔（よまき）きゅうりの栽培を行いました。会津伝統野菜について知っている生徒はほとんどおらず、認知度の低さは地域の方々にも共通していました。それを知った生徒たちから、一人でも多くの人に知ってもらい、自分たちの地域を盛り上げ、元気にしたいとの声が上がります。そのためにはどうすればよいか、何ができるかを考えるところから2年生の総合的な学習の時間がスタートしました。

はじめに、伝統野菜農家の方からお話を聞いて、生徒たちがアイデアを出し合い「会津伝統野菜をメジャーにしようプロジェクト」を立ち上げました。そして、宣伝部、販売促進部、商品開発部、広報部に分かれ、近隣の企業の協力を得ながら企画・準備を進め、10月30日に校外イベントを行いました。小菊かぼちゃ販売、かぼちゃの馬車、チラシ配布、カフェでかぼちゃプリン&ピザのプレゼン、そしてSNSを使った動画やLINEスタンプ制作など、担当ごとに活動し

ました。地元新聞にも取り上げられ、広く知られたことも生徒たちにとって大きな励みになりました。

プロジェクト完了後、学年内の活動報告会を経て、1年生への伝達発表

会を行いました。その中で2年生から1年生に向けて「会津伝統野菜をテーマにした学習は大変でした。でも、やりがいがあり、今まで知らなかった会津のよさを感じることもできました。そして、たくさんの人たちと出会い、関わることができます。来年度は、みなさんのアイデアと行動力で、さらに発展させてください!」と熱いエールが送られました。

学校と地域がしっかりとスクラムを組んで、若松二中のプロジェクトは次年度に続いていきます。



カフェでのプレゼンの様子

堂島の玉手箱

喜多方市立堂島小学校



今年度は、コロナ禍で思うように体験的な活動が行えず、人との交流も制限されてきました。特に、農業科のまとめである、地域の方々を招いての収穫祭の実施は困難な状況で

した。そこで、児童がコロナに委縮せず、前向きに夢や希望をもった生き方を考えていく農業科学習の発展としての体験的な学習はできないか検討しました。その結果、キャリア教育を重視し起業家教育の視点を取り入れて、教育課程を横断的に再編成することとしました。

以上の経緯により、起業体験を通して、自力で自分の将来を切り開く力を育成するため、高学年児童が中心となり、改めて堂島地区の良さを見つめ直し、それを形に（商品化）す

る学習がスタートしました。

まず、「ふるさと堂島地区の宝探しをしよう」というテーマで、堂島の特産物等を調べました。そして学校運営協議会委員を含め、地域の起業家の方々にも助言を頂きながら、堂島の宝物である農産物を生かした弁当を企画しました。地域の皆さんに元気を届けたいという児童の思いから商品化を進め、名称は児童投票により堂島の宝を詰めた「味の玉手箱」となりました。児童のアイデアを基にメニューや包装紙を彩るキャラクターを決め、商品化した弁当は、公民館等で販売しました。

起業家教育活動を通して、様々な方々と関わり、地域の一員として充実感や達成感を実感している児童の姿がうかがえました。堂島の宝が詰まった「味の玉手箱」の商品化を目指した学習活動を通して、自信と主体性を高めていった子どもたちの姿こそ、堂島の玉手箱となりました。

生徒の学びを保障する～ICTの活用を通して～

猪苗代町立猪苗代中学校

1 臨時休業中におけるオンライン授業の実施

4月下旬よりGoogle Meetを活用し、同時双方向型のオンライン授業やオンラインで課題の添削指導を行った。また、常時閲覧できるように配信した授業動画や動画教材をGoogle Classroomに掲載した。生徒の表情を見ながら授業を実施し、質問などの応答ができた。また、健康観察や連絡事項の伝達など、コミュニケーションの場としても活用でき、情緒的なつながりの維持のためにも有効だった。課題としては、学校の回線速度に制限があり、学年毎に時間をずらして対応したこと。家庭における通信環境に差があり、希望により中学校のPC室を開放するなど配慮したこと。情報モラル教育とリテラシーの育成を推進することなどが挙げられる。

2 不登校生徒、別室登校生徒を対象としたオンライン授業の実施

学校再開後も、不登校生徒や別室登校生徒を対象としたオンライン授業を継続して実施した。学びを保障するととも

に、授業を受けることができない不安の軽減に対応できた。課題としては、将来の自立へ向けた支援も併せて講じていく必要性を感じている。

コロナ禍や不登校においても、学びを止めず保障する手立として、ICTの活用は重要である。猪苗代町の全ての中学校では、1人1台端末が利用可能となり、その活用の仕方について更に期待できると考える。



オンライン授業の様子